

令和6年度湘南大庭地区郷土づくり推進会議
＜全体会議（第13回定例会）議事録＞

日 時：2024年（令和6年）10月1日（火）19：00～21：30

場 所：湘南大庭市民センター 2階 第2談話室

出席：10名

欠席：3名（菅野委員、吉田委員、竹内委員）

早退：1名（石塚委員）

（協力員）0名

（事務局）湘南大庭市民センター 大塚センター長、入澤主幹、瀬川主査、杉浦

1 前回の確認

令和6年度第12回定例会議事録（案）＜資料1＞

特に異議なし。

2 協議事項

- ・湘南工科大学情報学部 井上研究室の紹介について

湘南工科大学は新たに情報学部が設立された。

井上助教は20数年前に同大学を卒業し、民間企業での勤務を経た後に同大学で教鞭を執るに至った。

ここからは、井上助教から同大学の事業実績の報告を受ける。

神奈川県複数の自治体と協働してきた実績あり。

最近では、鎌倉市と協働の実績あり。

過去に鎌倉市が世界遺産登録を目指し活動していたことがあるが、残念ながら登録されなかった。その原因は、建物が残っていないことに加え、復元することもできなかったことから、魅力を十分アピールできなかったことも原因と思われる。

永福寺をVR（バーチャルリアリティ）により復元できたら世界遺産に登録されていただろう。

2004年にCG制作に向け、鎌倉市から同大学に話が来た。

CGによる復元は、資料を鎌倉市から提供してもらい、宮大工や専門家のアドバイスをもとに詳細な部分まで忠実に再現できた。

永福寺のCG復元には、ソフト「Maya」を使用し、瓦一枚一枚まで忠実に復元できた。

VRゴーグルを被れば、再現した家屋が目の前に広がる。

VRゴーグルは、片方の目に一つずつカメラがあり、2つのカメラにより立体的に感じる仕組み。

スマートフォンにAR（拡張現実）のアプリを入れれば、そこにあるかのように復元できる。

ARは、動くとその動きに合わせて、復元物が立体的に見える技術。

北条義時法華堂跡をARで復元させた。

綾瀬市や海老名市とも同様に協働してきた経過あり。

海老名市では相模国分寺を取り上げ、CGにより復元した。

綾瀬市では神崎遺跡を取り上げ、VRコンテンツを用いて、環濠や竪穴式住居、さらに弥生人を再現した。ここでは、約7分間のVR体験が可能。

綾瀬市の議会棟でプロジェクションマッピングを過去に行った。

綾瀬市目久尻川にドローンを飛ばし、360度カメラを吊り下げ撮影した映像を作製した。

綾瀬市では、目久尻川歴史文化ゾーンを紹介するコンテンツを開発。

綾瀬市では、VRやARコンテンツを制作する上で、フォトグラメトリ技術を活用している。フォトグラメトリ技術は、土器や出土したもの単位でも活用できる。開発期間は、半年～2年程度。

新潟県糸魚川市では、フォッサマグナパークの解説アプリを開発。

静岡県三島市では、山中城址ARアプリを開発。

自治体からの受託された研究を行うことも多い。

本市では、明治市民センターと協働し、羽鳥でVR撮影を行ったことがある。

VR研究は学会でも発表した内容であり、引き続き研究を行っていく。

東京ゲームショウ2023・2024に出展したことがある。

VR研究のプロジェクトは、もともと同大学ナガサワ教授が研究していたが、退任されたことで井上助教が研究を引き継いだ。

藤沢市では、大庭城跡の遺構を広く知ってもらうためにVR技術を導入するか、又はどの程度導入するか、大庭城跡部会で検討したい。

問題は、作り込み過ぎると利用者が付いて来ないため、加減が重要。

学生の教育の一環として取り組んでいる部分もあり、今後も自治体と協働してコンテンツを制作、提供していきたい。

同大学に地域連携センターがあり、井上研究室は同センターには属していない。

・大庭台墓園合祀墓建設工事について〈資料2〉

今年9月から来年10月まで工事を行う。

資料2を使用し、工程を確認。

3 各部会からの報告事項

(1) 距離表示部会から〈資料3・4〉

幟は10月18日に完成する予定。

幟が完成すれば、小糸市民の家で行うスマホ教室でも使うことができる。

近日、大庭城跡の友の会、ゴルフコンペ参加者にふるさとまつりのウォークラリーにボランティアスタッフの協力を呼び掛ける予定。→事務局で対応中。

缶バッジの試作品を提示。

近日中に缶バッジパーツが納品予定であり、近日のパーツ納品を見込み、缶バッジ製作を10月12日～14日に行う予定。

ふるさとまつり当日、従事スタッフ数が多ければ、複数で各チェックポイントに立つことも可能。

拘束時間は10時～13時。ウォークラリーの実施時間は11時～12時30分の予定。

(2) セカンドライフ部会から<資料5・6・7>

資料をもとに説明。

粘土細工講座の実施報告。

アンケートによれば、後半講座の希望はドローンが多い。

後半講座のチラシを地区内複数個所に配架を依頼した。

後期講座の申込状況の確認。

9月30日現在、講座1：4名、講座2：9名、講座3：15名、講座4：10名。(e-kanagawaと電話を合計した申込数)

ふるさとまつりのアンケートを紙で配布するとともにe-kanagawaでアンケートを掲載の予定。

公民館担当にも内容を確認し、意見を求める。

「多世代居住の街づくり 担い手養成講座」で活動内容を紹介するよう依頼されており、紹介してよいか。→特に問題ないため、紹介してほしい。

(3) デジタル推進部会から<資料8>

シニアのためのかんたんスマホ教室のアンケート集計結果を報告。

後期の講座のアンケートは、共催の公民館担当の視点を踏まえた上で見直したい。

(4) かるた部会から<資料9>

中学2校に追加の18文字のうち9文字ずつを依頼。

滝の沢中学校では、10月18日の期限は難しいので、10月末までにできないかとの意見あり、柔軟に対応する旨を伝えた。

大庭中学校は、既に美術部の顧問には校長から依頼済みであり、1文字につき3作品以上を前向きに検討。

(5) 大庭城跡部会から<資料10>

過去の大庭城シンポジウムを顧みる。

令和2年2月1日に開催した「上杉の城館～大庭城を外から見る～」を整理し、同じように今年度もシンポジウムを開催したい。

シンポジウムに開催予定の日程を決め、郷土歴史課と調整する。

2月1・2日か8・9日を候補日とし、郷土歴史課と調整。

郷土歴史課の宇都氏に講師を依頼し、他に講師を招くか、招くとしたら誰なのか、郷土歴史課の宇都氏の都合とともに調整したい。

(6) 子ども居場所づくり部会から

部会で話し合い、今後の方向性を決めていきたい。

11月24日に湘南西部団地で防災・団地まつりを企画しており、子どもを対象に缶バッジを作製するイベントを行う。

郷土づくり推進会議の後援を依頼できないか。→郷土づくり推進会議として後援することになった。

事務局から、缶バッジの作製機器の貸出は可能か。→可能だが、当センターで郷土づくり推進会議委員が立会の上で使用のこと。

インターネットで購入したパーツではなく、事務局が購入する店舗から購入するよう依頼。機器損壊を防ぐため、購入店舗の連絡先等を後日、事務局から提供する。

材料は湘南西部自治会で調達する予定。

(7) ゴルフ部会から

菅野部会長から、委員を辞任したいとの申出あり。

今後、議長が部会長を引き受け。

次回のゴルフコンペは2月を予定。

4 その他

- ・ふるさとまつりの展示内容を検討。

各部会から示された地域課題を参考に、今期の活動内容を報告する。

展示物のAO印刷内容を次回（10月17日）の定例会で決定したい。

以上

【次回定例会】2024年10月17日（木）午後7時～

湘南大庭市民センター 2階 第1談話室